

平成19年度科学研究費補助金実績報告書（研究実績報告書）

1. 機関番号 1 4 6 0 3 2. 研究機関名 奈良先端科学技術大学院大学
3. 研究種目名 若手研究(B) 4. 研究期間 平成17年度～平成19年度
5. 課題番号 1 7 7 0 0 1 1 1
6. 研究課題名 アソシエーション可視化による異文化間協調作業のための相互理解と知識創発の統合支援

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
7 0 3 7 9 6 0 0	フリガナ オオヒラ, マサオ 天平, 雅雄	情報科学研究科	助教

8. 研究分担者(所属研究機関名については、研究代表者の所属研究機関と異なる場合のみ記入すること。)

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
	フリガナ		

9. 研究実績の概要(国立情報学研究所でデータベース化するため、600字～800字で記入。図、グラフ等は記載しないこと。)

下欄には、当該年度に実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、交付申請書に記載した「研究の目的」、「研究実施計画」に照らし、600字～800字で、できるだけ分かりやすく記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。

本研究の目的: 本研究課題は、異文化間協調作業におけるグループミーティング時の相互理解構築過程と知識創発過程の計算機による統合的支援を目的としている。本研究課題では、(A) 異組織の開発者らによるソフトウェア設計ミーティング、(B) 産学官連携プロジェクトにおける研究者らによる研究ミーティング、(C) システムアナリストと顧客らによる要求定義ミーティングという具体的な応用ドメインにアソシエーション可視化技術を適用しその有効性を検証する。

本年度(～平成20年3月31日)の研究実績: 本年度は、昨年度構築した支援システムの評価を目的とした研究をおこなった。構築した支援システムを応用ドメインに適用し実証実験をおこなった。特に、本研究課題が対象とする応用ドメインの中でも異文化間協調作業が最も困難な「システムアナリストと顧客らによる要求定義ミーティング」では、支援システムを利用することでシステム構築時に必要となる顧客の必須要求及び潜在要求をより多く抽出できることを確認しシステムの有効性を確かめることができた。多くの実証実験をおこない得られた知見をまとめ、学術論文として発表した。

※ 成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A4 判縦長横書 1 枚)を添付すること。

10. キーワード

- | | | |
|--------------|--------------|------------|
| (1) アソシエーション | (2) 異文化 | (3) 協調作業支援 |
| (4) 要求工学 | (5) ソフトウェア開発 | (6) 知識協創支援 |
| (7) 相互理解 | (8) 知識創発 | (裏面に続く) |

11.研究発表（平成19年度の研究成果）

〔雑誌論文〕 計（ 2 ）件

著者名	論文標題			
達明憲	異文化コラボレーションとしてのソフトウェア要求抽出の支援			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
電子情報通信学会論文誌	有	J99-D	2007	3151-3160

著者名	論文標題			
上野 秀剛	脳波を利用したソフトウェアユーザビリティの評価 — 異なるバージョン間における周波数成分の比較 —			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
ヒューマンインタフェース学会論文誌	有		2008	採録決定

〔学会発表〕 計（ 7 ）件

発表者名	発表標題	
大蔵 君治	メールスレッドのクラスター分析による OSSプロジェクトのアクティビティ予測手法	
学会等名	発表年月日	発表場所
電子情報通信学会 ソフトウェアサイエンス研究会	2007年10月23日	宮城大学, 宮城県

発表者名	発表標題	
大平 雅雄	OSSコミュニティにおける共同作業プロセス理解のための中心性分析	
学会等名	発表年月日	発表場所
情報処理学会 グループウェアとネットワークサービス ワークショップ2007	2007年11月8日	ホテル磯部ガーデン, 群馬県

発表者名	発表標題	
伊原 彰紀	複数のサブコミュニティを有するOSSコミュニティにおける コーディネータの分析	
学会等名	発表年月日	発表場所
情報処理学会 グループウェアとネットワークサービス ワークショップ2007	2007年11月8日	ホテル磯部ガーデン, 群馬県

発表者名	発表標題	
前島 弘敬	コーディネータのコミュニティ媒介性の評価指標の提案	
学会等名	発表年月日	発表場所
情報処理学会 グループウェアとネットワークサービス ワークショップ2007	2007年11月9日	ホテル磯部ガーデン, 群馬県

発表者名	発表標題	
Shinsuke Matsumoto	A Comparison Study on the Coordination Between Developers and Users in FOSS Communities	
学会等名	発表年月日	発表場所
Socio-Technical Congruence (STC 2008)	2008年5月10日	Leipzig Germany

発表者名	発表標題	
Kimiharu Ohkura	A Method for Measuring OSS Projects' Activity based on Cluster Analysis of Email Threads	
学会等名	発表年月日	発表場所
The 4th International Conference on Open Source Systems (OSS2008)	2008年11月7-10日	Milan, Italy

発表者名	発表標題		
Yasutaka Kamei	Analysis of Coordination between Developers and Users in The Apache Community		
学会等名	発表年月日	発表場所	
The 4th International Conference on Open Source Systems (OSS2008)	2008年11月7-10日	Milan, Italy	

〔図書〕 計（ 1 ）件

著者名	出版社		
Kumiyo Nakakoji	Springer		
書名	発行年	総ページ数	
A Computational Tool for Lifelong Learning: Experiencing Breakdowns and Understanding Situations (Chapter, in The Role of Technology in CSCL: Studies in Technology Enhanced Collaborative Learning)	2 0 0 7	47-62	

12. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

〔出願〕 計（ 0 ）件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

〔取得〕 計（ 0 ）件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別

13. 備考

※ 研究者又は所属研究機関が作成した研究内容又は研究成果に関するwebページがある場合は、URLを記載すること。

--